



資料 1 1

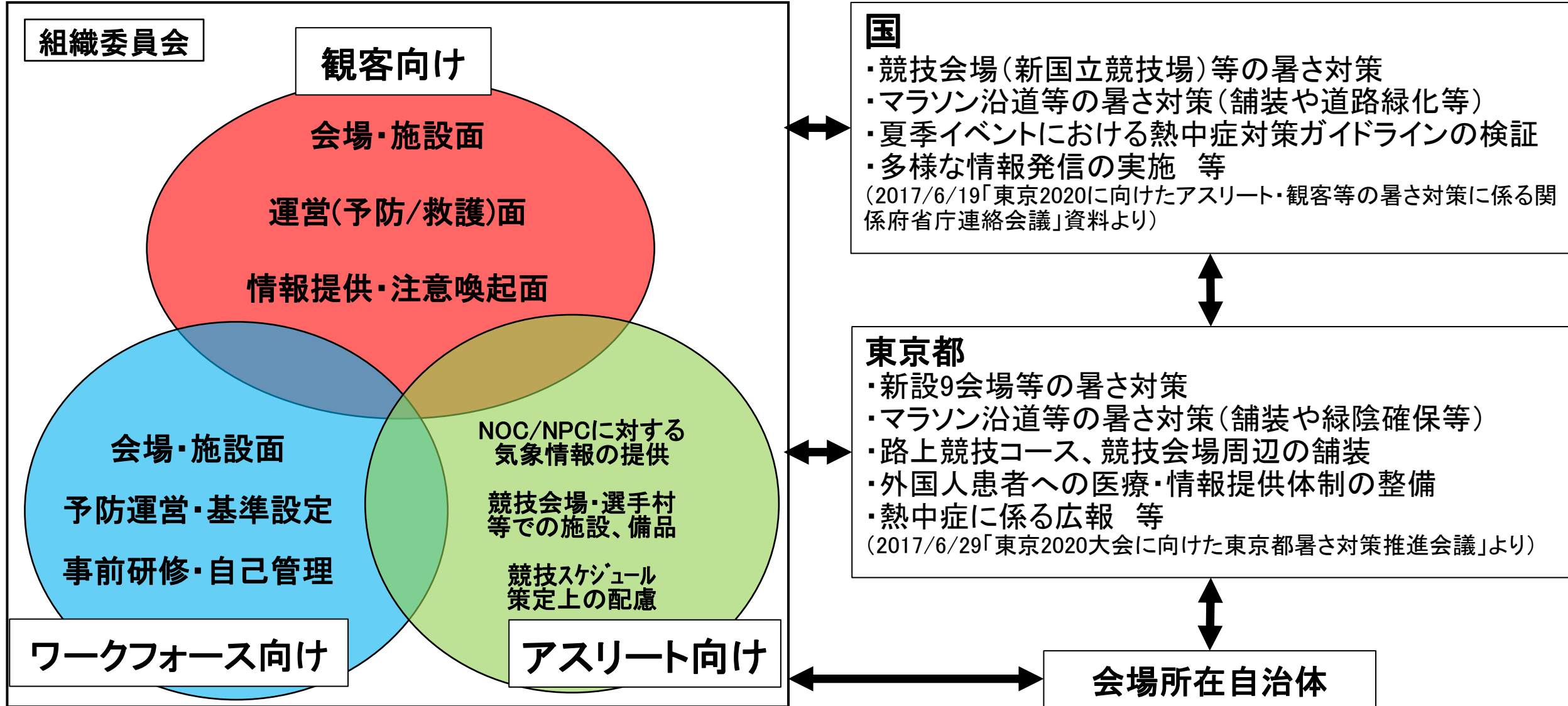
(組織委員会)

暑さ対策の検討状況

2018年6月28日

公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック組織委員会

1 組織委員会の暑さ対策のイメージ



2 観客向けの暑さ対策の検討ポイント

観客向けの暑さ対策は会場・施設、予防運営、救護運営、情報提供・注意喚起について検討する。

1. 会場・施設

- ・日射の遮蔽と冷却の組み合わせによる効果的な対策の実施

2. 予防運営

- ・暑さ指数(WBGT)の活用による対策の実施
(28℃以上の場合に特別の対策を実施 (例)注意喚起の強化、ストレス発散の工夫)

3. 救護運営

- ・早期の発見と対処による重症化の防止と、地域医療への負担軽減
- ・医務室・救急車・ファーストレスポnderの適正な配置

4. 情報提供・注意喚起

- ・会場内の告知に加えて、Web・モバイルアプリを活用した情報発信の実施
(組織委員会のWebサイトに暑さ対策のポータルページを作り、国や自治体のサイトとリンクを貼る。)

3 ワークフォース向けの暑さ対策の検討ポイント

ワークフォース向けの暑さ対策は会場・施設、予防運営、事前研修について検討する。

1. 会場・施設

- ・ワークフォース用の冷房・壁付き休憩エリアを設置
- ・一部の会場では、屋外配置状況に応じて、追加の屋根付き休憩スペースを設置

2. 予防運営

- ・屋外配置や連続屋外勤務時間の上限等に関する基準の設定
- ・屋内勤務と屋外勤務のローテーションの実施
- ・暑さ対策に考慮した配布物の工夫(ユニフォーム等)
- ・水分補給等の環境整備

3. 事前研修

- ・「夏季イベントにおける熱中症対策ガイドライン」や有識者の意見を踏まえて研修内容を検討
- ・観客向けの対処や自身のコンディション管理に関する研修の実施

4 選手向けの暑さ対策の検討ポイント

選手への暑さ対策は各NOC/NPCが強化策の一環として取り組むことを踏まえ、組織委員会として以下の対策に取り組んでいく。

●NOC/NPCに対する気象情報の提供

- ・各国・地域の選手が東京2020の気象状況を想定したトレーニングができるようNOC/NPC Visitや選手団団長会議等の機会に気象情報を提供

●施設、備品等の配慮

- ・アスリート専用の休憩スペース(アスリートラウンジ)を各会場に設置
- ・競技特性に応じた飲料水・アイシング用氷の提供など、競技の特性やIFの基準を踏まえて最適な暑さ対策の実施を検討

●選手村

- ・飲料水・アイシング用氷、屋外休憩スペースの用意

●競技スケジュール策定上の配慮

- ・競技日程策定のためのクライテリアの1つとして、暑さ対策も考慮の上、競技スケジュール(セッションスケジュール)を策定